

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）  
高齢者のがん情報活用に関する検討

研究分担者 大西 丈二 名古屋大学医学部附属病院 老年内科（講師）

研究要旨

目的：地域在住一般高齢者における健康に関する情報源およびインターネットから得る情報に対する信頼性について調査、分析する。方法：65歳以上の地域在住高齢者を対象として実施された介護予防事業にて、質問紙を用いて、健康に関する情報源およびインターネットから得る情報に対する信頼性について評価した。結果：携帯電話・スマホは27.6%、パソコン・タブレットは21.9%、WEBは27.6%の利用に留まり、十分、広がっているとは言えない状況が知られた。インターネットを利用したサービスは44.8%が「信用できない」または「あまり信用できない」と答え、信頼ある情報源になっていないことも知られた。考察：高齢者の情報機器利用率はまだ十分に高くなく、インターネットを利用して得た情報に対する信頼も低かった。高齢者が機器を持ち、利用できる社会的支援の必要性が示唆された。

A. 研究目的

総務省「令和2年度通信利用動向調査」によると、インターネットの利用率は70代で59.6%、80歳以上では25.6%とされているが、この値の解釈には慎重さを要する。同調査は世帯単位で行われるもので、回収率は43.3%であるが、若年者がいない世帯からの回答がなされにくいものである。2020年度の結果によると、回答が集められた33,821名のうち、60-69歳は2,795名、70-69歳1,418名、80歳以上293名となっており、これらから60歳以上は13.3%、70歳以上5.1%と実際の人口構成率よりかなり低いものとなっている。また2018年、2019年、2020年度の年次推移をみると、70歳代が51.0%、74.2%、59.6%、80歳以上が21.5%、57.5%、25.6%と2019年度が突出して高率で、信頼できる数の客体が母集団から代表して集められているかに疑問が残る。

2017年の金城らの調査によると、高齢者において健康管理や病気予防のための情報を得る方法はテレビが71%と最も多く、次いで医師ら専門家、新聞、家族や友人、書籍・雑誌と続き、インターネットはそれらより低い20%に留まっていた。

厚生労働省「国民健康・栄養調査」（令和元年）によれば、食生活に影響を与えている情報源は、70歳以上において、テレビが55%と最も高く、WEBは1%に過ぎなかった。そして厚生労働省によって2014年、情報源に対する信頼度について調査されているが、全年代においてインターネットに対する信頼は56%であった（平成26年版厚生労働白書）。

これらの通り、調査による差異が少なからず見られている中、本研究では地域在住一般高齢者における健康に関する情報源について調べ、その中で、インターネットから得る情報に対する信頼性について調査した。

B. 研究方法

愛知県A市において65歳以上の地域在住高齢者を対象として実施された介護予防事業にて、健康に関する情報源について、質問紙調査を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は性別および3項目の質問の回答を分析したものであり、個人情報収集しておらず、すべての回答を合わせても個人を同定することは不可能であり、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省、2021）の対象外であった。

C. 研究結果

介護予防事業参加者105名（女性68.6%）のうち、任意回答ではあったが、全員から回答が得ることができた。日頃利用している情報源としては、市の広報誌が81.9%と最も多く挙げられた。携帯・スマホは27.6%、パソコン・タブレットは21.9%と2割台に留まった（図1）。インターネットを使ったサービスのうち、メールは34.3%（36名）、WEBは27.6%（29名）、SNSは27.6%（29名）で使われていた。それら3種とも利用している者は13.3%で、いずれも利用してい

ないのは43.8%（46名）であった（図2）。男女別では、3種とも利用している者は男性が27.3%であったのに対し女性は6.9%、いずれも利用していないのは男性が39.4%であったのに対し女性は45.8%と、男女差が目立った。インターネットを利用したサービスへの信頼性は、44.8%が「信用できない」または「あまり信用できない」と回答した（図3）。

図1. 日頃利用している健康に関する情報源

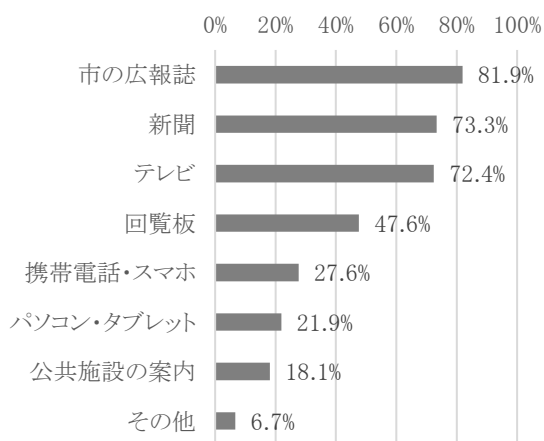


図2. 利用しているインターネットサービス

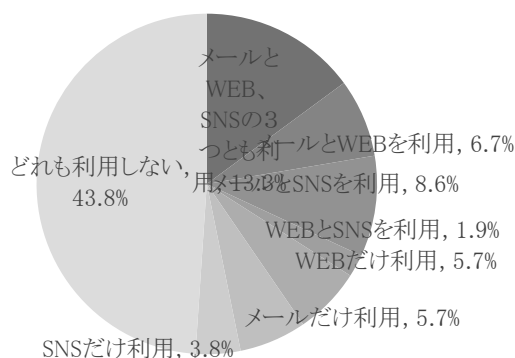
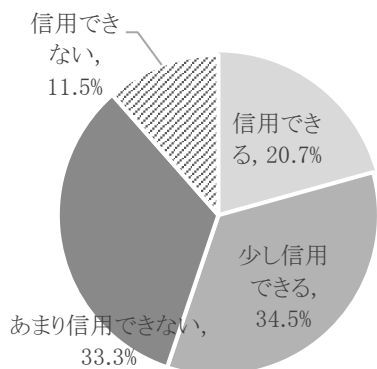


図3. インターネットサービスへの信頼性



## D. 考察

一般に、介護予防事業に参加する高齢者は、健康意識、および社会活動の意欲が高い群と考えられ、インターネットの利用も比較的高いことを予想したが、携帯電話・スマホは27.6%、パソコン・タブレットも21.9%の利用に過ぎず、WEBを利用する者も27.6%に留まった。新型コロナウイルス感染症流行を経て、ICT普及がより進んだ現在においても、高齢者においてインターネット利用は十分、広がっているとは言えない状況が知られた。

また、インターネットを利用したサービスへの信頼性は、44.8%が「信用できない」または「あまり信用できない」と答え、信頼ある情報源になっていないことも知られた。

高齢者は新型コロナウイルス感染症のハイリスク者であり、他者と食事や懇親などの交流には今後も慎重な配慮が求められる。またADL（日常生活動作）低下を生じる高齢者も多く、自宅で他者とのコミュニケーションを持ったり、社会活動に参加したり、健康情報を得るためにインターネットは重要な位置を占めており、高齢者が機器を持ち、利用できる社会的支援の必要性が示唆された。

## E. 結論

高齢者の情報機器利用率はまだ十分に高くなく、インターネットを利用して得た情報に対する信頼も低かった。高齢者が機器を持ち、利用できる社会的支援の必要性が示唆された。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし